

< 1班 >

・ 景観とは周りとの関係性を考えるので、景観の構図は人間の視野と同じように横長の長方形である。そうすると、写真の構図（正方形に近い四角形）とは違い、邪魔なものが入り込みやすいので横長の構図で良いシーンを探すのは難しい。神呪寺の構図写真は手前に紅葉が入っていて遠近感があり奥行きを感じることができる、非常にいい写真だと思う。

・ 不調和の写真（両度町）について、人間の視野は横長であり、目を動かさなくても広い範囲を見ることができる。しかし、高さのあるものを見ようと思うと目を上下に動かさないといけない。人間は目を動かす、体を動かすとエネルギーを使うので、「何度も目を動かす→疲れる→負荷がかかる」ものは、景観的に異質なものに見えてしまうと言える。

・ 国道 171 号の写真について、見慣れたものの美しさについて整理して考えてみる。例えば西洋のまちなみに屋上看板はあるだろうか。割と少ないのではないか。京都はどうだろうか。出していいところと出してはいけないところ、そういったエリアに配慮して整備していくと見慣れた形でも美しく、その地域らしいまちなみになっていくのではないか。もう一点気になるのが歩道橋について。昔は機能重視で、歩ければいいという考え方だったが、もっとおしゃれにできるだろうと思う。細かい配慮ができていないものは看板と同様にほったらかしにされており不調和だと感じる。

・ 調和の写真（仁川の住宅地）について、外壁のベージュが全く同じ色だと単調で飽きてしまうが、仁川の砂の色をベースにしながら濃淡があるため、よくまとまっているように感じる。

・ イメージカラーに選んだ5色に緑色が入ってきたら、バランスが良かったかなと思う。

・ イメージカラーに選んだピンク色について、ピンク色は桜をイメージさせる色で、季節が変わると周囲に合わない（秋など）ため、恒久的なものに使用するの是不向きである。ピンク色を使う際にはトーンを落とすなど配慮が必要だと、写真を見て印象付けられた。

・ 甲子園球場の外壁タイルの色は良い色だと感じる。緑系など何色ものタイルを使用しており、バランスよく整って非常に落ち着いている。緑のツタが生えてきたときにも美しい。深い色とも調和する。おすすめの場所である。

< 2班 >

・ 海をイメージされる方は山側を走っている阪急ではなく高速道路を利用する方なのかと感じた。

・ 調和・不調和では分かりやすい事例を選んでいただいた。クリーム系の建物群の中にグリ

ーンやブルーがあると違和感がある。それはオレンジ系の色とブルー系の色とでは距離が遠い（色相環の反対色）ため、また対峙性も出てくる。調和させるために、同じ色にする方法もあるが、アクセントとして小面積だけ使う方法もある。どの色も使い次第で調和させることもできるし、逆に不調和になってしまうこともあるということを理解しておいて欲しい。

・道路の色は昔土だったが、今はアスファルトやコンクリートの色が一般的になっている。アスファルトには石などが練り混ぜられている。ここに地元の石や砂が使われてくると、地域色が出ていいのではないか。グレーはどうしても人工的なイメージなので、自然な印象の色をできるだけ取り入れてほしいと感じる。

・阪急電車の色は一色だがきれいな色。飽きのこないいつまでも使われる色である。日本は新しいものが好きな傾向があるので、電車の色も次から次へと変化していくことが多い。そういった中で、阪急電車の色のように、まちの中に変わらない色というのを作ってもらえると嬉しく思う。

< 3 班 >

・不調和の写真（ハンバーガーショップ）、単体だと良いが、周囲も含めるとまとまりがない。いい街にはまとまり、センスがある。日本もフランス、パリなどのようにセンスのある街に近づけていければと思う。

・マロン色は夕暮れ時や黄昏時になると紫色に見えてくる。

・茶色は青空が出ていると青空が入り込んで紫っぽく見えることがある。山紫水明という言葉にもあるように、紫に見えてくるのは自然な姿である。色はその一つ一つの中でも色々な見え方をする。

・イメージカラーに歴史的なものの色（戒さんの土塀）を採用されていた点が評価できる。自然の色だが鮮やかで強い色をしている。神社の外にまで回っており象徴的である。歴史的なものの良いところは、地場のものを使って建築や土木的な材料にしたりすることで馴染みのあるやさしい色になることである。

・阪神甲子園駅は甲子園球場の色と合わせて落ち着いた色でまとめている。一つだけ残念なところは植栽がないこと。人で沢山になるので難しいのかもしれないが、緑が欲しい。

・西宮市役所（南館周辺）は西宮らしさがない。どこにでもある市役所、地元らしさに欠ける。

< 4 班 >

・イメージカラーについて、赤瓦の色は、昔洋風住宅が展開されたイメージが西宮にあるからかもしれない。このようなまちの賑わいと豊かな自然のイメージをおさえられている。

入っていない色として、阪急電車の色（マロン色）がある。これはセンスをさらに良くする色で、そういったセンスのいいものが西宮にたくさんあると思う。そういったものがイメージカラーに選んだものに垣間見えている。

・調和不調和について、自然は写真に撮るのが難しい。写真の面白さだけで言うと不調和の写真のほうが優れている。調和しているものは表に出てこない。やはり私たちの背景（バックグラウンド）にあるものが調和しているもの。

・構図の写真について、他の班も同じだと思うが、甲山、六甲の山並みが多い。各班見えていたが海が出てこない。海を身近に感じてもらうと西宮の良さがまとまってくるのではないか。

< 5班 >

・写真を撮る視点でまとめていただいた。

・黄昏時の写真は西側だが、東側（裏側）は真っ暗になっている。全体が分かるようなダイナミックな写真だと感じる。

・ツツジの写真について、この地域の独特の花。花見というのは元々ミツバツツジを見ることがで後から桜を見ることが多くなった、という伝統までも感じさせる写真。

・夕暮れ時から夜にかけての光は今のイルミネーションにそのまま使われている。紅葉をライトアップすると温かい光になる。今はLEDだが昔は電球だった。電球は温かな光だがLEDは少しクールな光である。昔を知っておられる人が今のルミナリエを見たらどう思うかなと。また、高槻市では防犯灯は青いライトを使っている。ブルーの光が顔に当たると非常に青ざめて見える。逆に温かい光というのは肌色を美しく見せてくれる。温かい光は温かい感情までもが出てくるのかなと思っている。

・ランドマーク（又は良い景観の対象となるもの）はどこからでも見える、色々な見せ方をしてくれる、という特徴がある。西宮で言えば甲山がそれにあたる。また、甲山はまちなかで目印になり（方向が分かる）道しるべになる。

・ブルーシートについて話が出たが、最初は青ではなくオレンジ色だった。日本人は青色と数字の7を好む傾向がある。そもそもなぜ青色が好まれるか、青色は海、空、水の色等たくさんあるが物としての色はない。全て触れない色、つまり汚れない色であり美しい色とされる。写真を撮った時に人工のブルーが周辺に合わないなと感じたのだろう。皆さんもこういった視点を持って生活に活かしていただけたらと思う。